

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	10	05	高津区地域連携スポーツ事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			671700		地域振興課		大平	64352	

事業の概要

事業の概要		地域のスポーツ関係団体との連携を図ったスポーツイベントを開催することにより、気軽にスポーツを体験できる場や地域住民同士の交流機会を提供する。 障害者との交流の機会や理解を深める場として障害者スポーツの体験イベントを実施する。							
実施期間		事業開始年度 平成24年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域コミュニティ活性化推進事業	
地域の課題と現状		希薄となった地域コミュニティの活性化や世代間交流を図る取組として、地域におけるスポーツ参加機会の拡充を図る必要がある。また、地域の中で障害に対する理解が浸透していない現状から、かわさきパラムーブメントに向けた取組として、障害の有無にかかわらずスポーツを通じた交流を図る必要がある。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	996	996						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
	その他特財								
	一般財源	996	996						

計画 (Plan)

事業の目的	地域のスポーツ関係団体等と連携したイベントを実施することにより、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化や世代間交流を図るとともに、地域におけるスポーツへの参加機会の拡充を図る。 障害の有無にかかわらず障害者スポーツを体験することで相互の理解を深め、かわさきパラムーブメントの啓発を図る。
今年度の事業の取組内容	親子そり体験、ファミリースポーツ緑日、障害者スポーツ体験イベントの実施

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等	(1)たかつde雪遊び親子そり体験を開催 平成30年7月21日、12月28日、平成31年1月4日 (2)たかつde笑顔ファミリースポーツ緑日を開催 平成30年12月1日 (3)スポーツインクルージョン緑日(障害者スポーツ体験イベント)を開催 平成31年2月16日						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1 活動指標	スポーツイベント実施回数	目標 5 実績 5				回
	2 成果指標	スポーツイベント参加人数	目標 1,500 実績 2,700				人
	3		目標 実績				回
	4		目標 実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	地域包括ケアシステムや障害者差別解消法の施行により、障害の有無に関わらず、誰もがお互いを認め合い交流できる場の提供が必要となっており、また、東京オリンピックパラリンピックを来年に控え人々がスポーツに対する意識が高まっている。		
事業の見直し・改善内容	実施 (直近)平成 30 年度 ■ 今後実施(平成31年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	かわさきパラムーブメントの取り組みとして、平成30年度から新たに障害者スポーツ体験イベントを実施した。平成31年度から、ダンスを通じた参加者同士の交流と。地域の活性化を図ることを目的とした発表事業を開催するため委託料を増額した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	東京オリンピック・パラリンピックの開催やかわさきパラムーブメントの推進により、スポーツに対する意欲が高まる中で、心のバリアフリーを目指した事業への関心やニーズは高まっており継続的な実施が必要である。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	スポーツイベントの参加者は増加しており、また協力団体も増えてきていることから地域のスポーツイベントとして定着してきているため、成果は上がっていると考えられる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	委託団体と協議を行い、役割分担の見直しや事業の効率化などについて改善の可能性がある。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	
			さらなる多世代交流、かわさきパラムーブメントの推進を目指し、障害者スポーツ体験イベントを通じて障害者の活動に対する理解促進を図るとともに、新たにダンスイベントを開催し、地域の活性化と参加者同士の交流につながるよう機会を創出する。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	10	10	親子運動会開催事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			671700		まちづくり推進部地域振興課			石丸	64351

事業の概要									
事業の概要		10月の第3日曜日に高津区内の各町内会・自治会の老若男女を主な対象とし、高津地区と橘地区で運動会を実施する。参加者数は両地区を合わせて7,000人で、リレーやムカデ競争などの町会対抗競技の他、当日参加できる競技も多数用意されている。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化推進事業			
		昭和41年度	—						
地域の課題と現状		大型マンションの建設や都市化の進行に伴い、地縁意識が希薄になっている中、地域コミュニティ活性化に向けて、コミュニティ形成の場を提供することが求められている。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,600	1,600						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特材							
		一般財源	1,600	1,600					

計画 (Plan)	
事業の目的	様々な団体の連携を通じて、地域交流の促進を図る。
今年度の事業の取組内容	実行委員会形式をとり、委員会は高津地区連合町内会、橘地区連合自治会を中心に、青少年指導員会、スポーツ推進委員会など関係団体で構成する。年に数回、実行委員会を開催し、その他に団体ごとに会議を開催する。様々な団体との連携による円滑な事業実施を図る。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		委託先: 高津地区親子運動会実行委員会、橘地区親子運動会実行委員会 日時: 平成30年10月21日(日) 午前8時30分(高津地区)、午後9時00分(橘地区) 場所: 高津中学校(高津地区)、橘小学校(橘地区)								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	高津地区での親子運動会参加者	目標	4,000				人	
				実績	4,000					
	2	活動指標	橘地区での親子運動会参加者	目標	3,000				人	
				実績	3,000					
	3			目標						
実績										
4			目標							
			実績							

評価 (Check)									
事業を取り巻く社会環境の変化		大型マンションの建設や都市化の進行に伴い、地縁意識が希薄になっている中、今後の更なる地域コミュニティ活性化に向けて、より多くの区民の参加を促すための周知方法の検討など創意工夫が必要となる。							
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 26 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)							
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		年齢にかかわらず参加できる競技(防災リレー)を新設したことにより、町内(自治)会対抗競技への参加団体の増加を図った。							
評価項目					評価				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか				a. 薄れていない b. 薄れている		a		
	評価の理由				地縁意識が希薄になってきており、事業のニーズは高いと考えられる。				
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか				a. 上がっている b. 上がっていない		a		
	評価の理由				数値として高津地区・橘地区ともに数千人規模の参加者を維持していることから一定の成果があるものと考えられる。				
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。				a. 可能性はない b. 可能性はある		b		
	評価の理由				委託先の実行委員会と協議を行い、効率的な事業実施に向けた改善の余地がある。				

改善 (Action)									
今後の事業の方向性	方向性区分		方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性					
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了		I	平成31年度は10月15日(日)の開催を予定している。地域コミュニティの活性化につながるよう実行委員会等とともに検討を行う。					

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	10	15	地域コミュニティ施策推進事業費			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			671700		まちづくり推進部地域振興課			土屋	内線64351

事業の概要									
事業の概要		町内会・自治会の役割や活動について、広く周知し、理解を深めてもらい、未加入者等に対する加入促進、担い手の育成、活動の充実等に取り組み、地域コミュニティ全体の活性化を図る。							
実施期間		事業開始年度 平成20年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業費	
地域の課題と現状		地域コミュニティの核である町内会・自治会は、役員の高齢化、後継者不足、加入率低下などの課題があり、その役割や活動について、広く理解を深め、関心を高めるとともに、加入促進や担い手不足解消、他の地域団体との交流など、組織の活性化が求められている。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	財源 内訳	事業費		593 322					
		国庫支出金							
	市債								
	その他特財								
	一般財源	593 322							

計画 (Plan)	
事業の目的	町内会・自治会の活動について、広く周知し、地域活動の理解を深め、未加入者等に対する加入促進、担い手の育成、活動の充実等に取り組み、地域コミュニティ全体の活性化を図る。
今年度の事業の取組内容	町内会・自治会の役割や活動について、広く市民の理解を深め、興味や関心を高めてもらうよう、イベント等で設置しやすい掲出物の作製、広報冊子等の配布など、周知に取り組む。

実施結果 (Do)											
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり								
取組内容の実績等		町内会・自治会の活動や役割等を紹介し、関心を高めるためのタペストリー等を製作し、イベントや区役所ロビーで展示するほか、町内会相談コーナーを実施し、広報チラシや冊子の配布等を行った。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
	1	活動指標	イベント等における広報チラシや冊子等の配布、掲出物の設置等の実施回数			目標	5				回
						実績	5				
	2					目標					
						実績					
	3					目標					
実績											
4					目標						
					実績						

評価 (Check)					
事業を取り巻く社会環境の変化		住民ニーズの多様化、地域交流の希薄化が進む中、町内会・自治会においては、役員の高齢化・後継者不足、加入率の低下・活動への参加者の伸び悩みなどの課題を抱えており、活動や役割の紹介し、地域への関心を高めるなど地域コミュニティ活性化が求められている。			
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)			
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>					
評価項目				評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由			住民意識の多様化、地域交流の希薄化が課題となっている中、地域への関心を高め、地域コミュニティ活性化の推進が求められている。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由			来庁者が多い時期に区役所ロビーで相談会を開催し、町内会・自治会の役割を紹介する展示や冊子配布を行うなど多くの地域住民に周知し、効果的に実施できた。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。			a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由			社会情勢や住民ニーズの変化に応じ、町内会・自治会が抱える課題に対応した効果的な事業内容を実施する。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	町内会・自治会が抱える課題に応じた地域コミュニティ活性化に向けた事業を実施していく。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	10	20	橘ふるさと祭り子どもイベント開催事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			673900		橘出張所		岩澤	74111	

事業の概要									
事業の概要		ふるさと祭り開催にあたり、区内小学生によるポスターコンクールを実施。ふるさと祭りを地域全体で盛り上げていく事と広報の意味から、優秀作品にてポスターを制作し、市バスや東急バス車内をはじめ区内公共施設等に掲出する。また、ふるさと祭り当日は、地域の子どもたちが様々な催し物を通じて触れ合う場を設定し、橘地区の魅力や地域特性を知ることができる内容のイベントを実施する。 なお、橘ふるさと祭りは、橘地区連合自治会をはじめ、地域の諸団体が構成された実行委員会により企画・運営している。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化推進事業費			
		昭和55年度	—						
地域の課題と現状		当地区は、近年マンションや新興住宅の建設が進み、地元住民と新規住民が接する場が少なくコミュニティの希薄化が課題となっている。本事業は、長い伝統と歴史に育まれて地域に定着している事業でもあることから、今後も継続して実施することで、地域の親睦を図るとともに地域コミュニティの形成を図る。特に地域の子どもたちに作品発表の場を提供することにより祭りに参加してもらうことでふるさと意識の醸成を図り、地域の和を深め、将来にわたって地域の活性化を図っていく。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,320	1,320						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特材							
		一般財源	1,320	1,320					

計画 (Plan)	
事業の目的	子どもを中心とした地域交流の活性化と橘地区の魅力や地域特性を知る機会の提供
今年度の事業の取組内容	・事前のポスターコンクールの実施と応募作品を活用した橘ふるさと祭りの広報 ・移動動物園やゲームコーナー、工作など子ども向けイベントの企画・運営 ・幼児、小学生を対象とした輪投げや各種工作遊びを行う子ども広場の運営に、地元中高生のボランティア参加を依頼

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		日時:平成30年8月5日(日)午前9時30分～午後5時30分 場所:川崎市民プラザ 天気:晴れ 橘ふるさと祭り来場者数:約7,000名、うち、子ども来場者数:約2,500名 事前にふるさと祭りポスターを各所貼付し広報を行った。ポスターコンクールの応募:87作品							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1 活動指標	事前のポスターコンクールの実施と応募作品を活用した橘ふるさと祭りのポスターによる広報	目標	650					枚
			実績	650					
	2 成果指標	移動動物園やゲームコーナー、工作など子ども向けイベントの実施(来場者数)	目標	2,000					人
			実績	2,000					
3 成果指標	幼児、小学生を対象とした輪投げや各種工作遊びを行う子ども広場を運営する地元中高生ボランティア	目標	10					人	
		実績	15						
4		目標							
		実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域の子どもたちが交流する場や作品発表の場、地域の和を深めて地域の活性化とふるさと意識の醸成を図ることを目的とした本事業は、今後も継続して求められている。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		委託団体及び関係団体と密に会議や連絡調整を行いながら、費用対効果を十分に考慮した企画・運営、および事務改善を進めていく。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	多くの住民の来場があり、子どもたちを中心とした地域の交流の場として、事業に対するニーズは高いと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	若者の視点を生かした子ども広場の運営を円滑に進行でき、地元中高生の社会参加の意識とボランティア意識の醸成が図れた。また、ポスターコンクールの応募が多数あり、子どもたちの作品発表の場としての成果があった。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	委託団体との密な連絡調整を行いながら、費用対効果を十分に考慮した企画・運営、および事務改善を進めていく。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 住民ニーズに適切した事業展開を目指すとともに、更に効率的・効果的な運営も視点に入れ継続して実施していく。橘地区の特色をより活かせる事業を行う事で、「地域の活性化」、「ふるさと意識の醸成」を進める。また、今後も運営補助として地元中高生に参加してもらうなど、より子どもの参加を促す事業内容について、実行委員会と検討・調整していく。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	10	25	高津区まちづくり推進事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			671700		地域振興課		田島	64355	

事業の概要										
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりの推進を図るため、次の事柄を推進する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民活動支援ルームの運営と登録団体の交流 2. 区内の市民活動の情報誌であるキラリたかつニュースの発行、市民活動支援のホームページの運営管理 3. 高津学の開催 4. 市民活動見本市の開催 5. 市民参加型のまちづくり実践活動の推進と地域ごとのまちづくり推進組織の生み育て 								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化事業費				
		平成11年度	—							
地域の課題と現状		<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会がかかえるさまざまな課題を市民自ら解決していこうとする活動が活発化する中で、市民の主体的な地域まちづくり活動への支援など区役所が果たすべき役割が高まっている。 ●「協働型事業のルール」に基づき、地域の課題解決に向けた協働型事業を推進するとともに、区民の主体的な地域のまちづくり活動に係る各種支援策への橋渡しの幅広い支援を行うことが求められている。また、それらと区事業との連携も見出し、地域の課題解決を推進していく必要がある。 								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
		事業費		3,856	3,124					
		財源内訳	国庫支出金							
市債										
その他特財 一般財源	3,856		3,124							

計画 (Plan)	
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ●区内の市民活動・まちづくり活動の活性化 ●活動に参加する区民の輪を広げ、参加と協働によるまちづくりの推進 ●広範なまちづくりの理念を着実に実現に向けていくことを支援
今年度の事業の取組内容	市民活動支援ルーム運営(通年) 交流会(10月・2月) キラリたかつニュース発行(6月・9月・11月・3月) ホームページ運営管理(通年) 高津学開催(6月・7月・9月・1月) 市民活動見本市実施(6月)

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> ●市民活動支援ルーム運営(通年) 交流会(10月・2月) ●キラリたかつニュース発行(9月・11月・2月) ●ホームページ運営管理(通年) ●高津学開催(6月・7月2回・9月2回・1月) ●市民活動見本市実施(6月) 								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1 活動指標	支援活動ルーム登録団体交流会	目標	2						回
			実績	2						
	2 活動指標	広報誌の発行	目標	4						回
			実績	3						
3 活動指標	関連団体等との協働イベント開催回数	目標	4						回	
		実績	7							
4		目標								
		実績								

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域社会がかかえるさまざまな課題を市民自ら解決していこうとする活動が活性化中、市民と区役所の協働によるまちづくり活動の必要性が高まっている。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		現在検討が行われている「コミュニティの新たな仕組み」に応じて事業の見直し等を行う予定	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域社会がかかえるさまざまな課題を市民自ら解決していこうとする活動が活性化中、市民と区役所の協働によるまちづくり活動のニーズは高まっている。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	旧平瀬川再生事業など、行政との協働による取組が進んでいる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	委託団体と協議を行い、事務分担のすみ分けの検討を進めていく。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
高津区まちづくり協議会の主目的である市民活動団体への中間支援を継続しながら、現在検討が行われている「コミュニティの新たな仕組み」の進捗に応じて事業の見直しを進めていく。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	10	30	高津区多文化共生推進事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			675750		生涯学習支援課		水野	814-7603	

事業の概要									
事業の概要		ともに地域に暮らす外国人市民と交流し、暮らしや文化等多様な体験活動を共有する機会を提供することで相互理解を進め、認め合い、支え合いながら共に暮らすことのできる多文化共生社会の推進を目指す。							
実施期間		事業開始年度 平成23年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業	
地域の課題と現状		高津区に居住する外国人市民は増加傾向にあり、国籍別では中国籍、韓国または朝鮮籍、フィリピン籍が約7割を占めるほか、東南アジア地域、ヨーロッパ、北米籍等多様な国籍の外国人市民が暮らしており、定住する外国人も増加している。今後更なる国際化の進展が想定される中で、日本人を含め、民族や文化等の異なる多様な住民が共に暮らし支え合う地域づくりが求められている。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	258	257						
	財源内訳								
	国库支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	258	257						

計画 (Plan)	
事業の目的	外国人市民と日本人市民が支え合いながら共に暮らす地域づくりを推進する。
今年度の事業の取組内容	多文化防災訓練、地域めぐり、料理・文化講習、子育て交流広場、多文化共生講演会を実施する。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		○多文化防災訓練: 7月8日(日) ○地域めぐり: 11月11日(日) ○料理・文化講習: 2月17日(土) ○子育て交流広場: 4月~3月の第3水曜 ○多文化共生講演会: 1月19日(土)								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	体験活動事業の実施(参加者)	目標	60					人
				実績	69					
	2	成果指標	体験活動事業の実施(満足度)	目標	80					%
				実績	87					
3	成果指標	講演会の実施(参加者)	目標	30					人	
			実績	104						
4	成果指標	子育て交流広場(参加者)	目標	60					組	
			実績	47						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		高津区では、区内工場での就労や日本人市民との婚姻等により定住する外国人市民が増加傾向にあり、その国籍も多様化していることから、多文化共生のまちづくりに向けた取組の継続が必要である。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(平成 31年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		平成31年度から外国につながる児童にむけた学習支援を新たに実施する。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	外国人市民は増加傾向にあり、事業のニーズは高いと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	高い満足度やリピーターの存在から、一定の成果があったと考えられる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	実行委員会と協働で事業を行う上で、進め方や実施時期等に改善の余地があるため。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 民族や文化の異なる多様な住民がともにコミュニティの一員として交流し、支え合う地域づくりが求められることから、日常生活に即した多様な体験・交流の機会を通じ、相互理解を進める事業を引き続き実施していく。	

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	10	35	ものづくりのまち推進事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			671650		企画課		原	64123	

事業の概要									
事業の概要		区の一つの特徴であるものづくり資源が集積する住工混在地域において、地元工業会等により結成された「高津ものまちづくり会」との協働でイベントを開催すること等により住民と工場との相互理解を深めるとともに、区内ものづくり資源の魅力や可能性を地域内外に発信する。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化推進事業費			
		平成25年度	—						
地域の課題と現状		高津区には最先端産業をものづくりの面から支える中小の加工組立型企業が集積し、研究開発型企業の育成・交流を目的とした「かながわサイエンスパーク」もあるなど、ものづくり資源の集積が区の一つの特徴となっている。しかし、区内の準工業地域では、工場跡地での戸建ミニ開発が進むなど住工混在状況が複雑化してきており、同地域の町工場は操業環境の確保に不安を抱いている。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	200	200						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
		一般財源		200		200			

計画 (Plan)	
事業の目的	(1)町工場と地域住民との交流促進 (2)区内ものづくり資源の魅力や可能性を地域内外に発信
今年度の事業の取組内容	(1)オープンファクトリー、川崎ものづくりフェアにおける協力、広報 (2)「かわさきサイエンスチャレンジ」への出展 (3)「高津区ものづくり企業マップ」の区内小学校への配布

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		・川崎北工業会(H30.5.12)、下野毛工業協同組合(H30.10.14)オープンファクトリー等開催における協力、広報 ・川崎ものづくりフェア(H30.9.15)開催における協力、広報 ・「かわさきサイエンスチャレンジ」(H30.8.4)への出展 ・「高津区ものづくり企業マップ」の区内小学校5年生全生徒への配布								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	オープンファクトリー等の開催協力	目標	2					回
				実績	2					
	2	成果指標	川崎ものづくりフェアの開催協力	目標	1					部
				実績	1					
	3	成果指標	かわさきサイエンスチャレンジ等への出展	目標	1					箇所
実績				1						
4	成果指標	「高津区ものづくり企業マップ」の区内小学校への配布	目標	1					箇所	
			実績	1						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		区内の準工業地域における住工混在状況はますます進んできている。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近)平成 27 年度 □ 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		各イベントについては今後も各主体が自立的かつ継続的に実施できるよう、経済労働局工業振興課と事業の整理を行い、オープンファクトリー及びものづくりフェアの開催支援については工業振興課の事業として実施し、高津区の事業としてはこれらのイベントへの協力と住工共生に向けた広報に特化して進めることで、委託料を削減した。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区内の準工業地域における住工混在状況はますます進んできている、事業のニーズは高いと考えられる。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	継続してイベントを開催することで地域に浸透し、イベント参加者も例年増加傾向にあることから、成果は上がっていると考えられる。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	各主体及び経済労働局工業振興課と協議を行いながら、より効率的かつ効果的な事業の推進方法を検討していく。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
これまでの取組を継続することで町工場と地域住民との交流を深めるとともに、より一層の交流促進に向けた新たな取組についても各主体及び経済労働局工業振興課と協議を行いながら検討することで、事業を見直し・改善のうえ継続していくことが適切であると考えられる。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	05	26	10	40	区民祭開催経費			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			671600		まちづくり推進部総務課			今井	64112

事業の概要										
事業の概要		区民・企業・行政の協働により開催される高津区民祭について、地域活性化や郷土愛・互助精神の醸成に寄与する事業として、主催者である高津区民祭実行委員会に補助金を支給する。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化推進事業費				
		昭和49年度	—							
地域の課題と現状		マンションの新設等で人口が増加し続けている中、区民ひとりひとりの郷土愛と互助の精神を醸成し、地域の絆を深めるため、区民・企業・行政が協働して高津区民祭を充実した内容で開催することにより、地域の活性化を図る必要がある。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	事業費	245	245							
	財源内訳									
	国庫支出金									
	市債									
	その他特財									
	一般財源	245	245							

計画 (Plan)	
事業の目的	区民祭を充実した内容で開催するため、主催者である実行委員会を行政として支援する。
今年度の事業の取組内容	区民祭の広報充実を目的に、実行委員会に対し補助金を支出するとともに、市の後援名義使用を承諾する。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		区民祭の広報充実を目的に、実行委員会に対し補助金を支出するとともに、市の後援名義の使用を承諾した。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	目標								
		実績								
	2	目標								
		実績								
	3	目標								
		実績								
	4	目標								
実績										

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		区の人口が増加している中、新規住民の郷土意識醸成は継続して課題となっており、区民祭の開催を通じて地域の絆を深め互助精神を養うため、広報の工夫等により区民祭への参加を一層積極的に促す必要がある。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域包括ケアシステム構築や防災など地域住民の互助連携の重要性が増している中、区民祭は地域住民がコミュニティに参加する機会を提供している。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	パレードや出店の参加団体数は概ね前年同等を維持できており、各会場イベントの運営スタッフには新規住民の参加も得られている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	区役所主催事業ではなく、補助金額も主催者である実行委員会からの申請によるが、補助対象である広報事業について、協力や実施手法に関する助言等により効率を向上させる余地はある。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I 区民祭実行委員会の動向を見つ、継続して支援を行う。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(高津区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
58	05	25	26	10	45	かすみ堤保全活用事業			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			671650		企画課		原	64123	

事業の概要											
事業の概要		地域住民や市議会からの保全の要望を受けて協議を行ってきた国有地である「かすみ堤」が、平成29年2月に河川区域に再編入された。 これまでの経緯も踏まえ、市が「かすみ堤」を河川占用した上で地域住民と協働して保全・活用を行うことにより、地域コミュニティの活性化を図る。									
実施期間		事業開始年度 平成20年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域コミュニティ活性化推進事業			
地域の課題と現状		かすみ堤について、国は河川区域に再編入したが、市に対して占用したうえでの維持管理を求めている。ただし、市が活用を前提とした占用及び維持管理をしていくためには、既存の施設(特に樹木等)の安全性等を確認する必要がある。 また、地域の多様な主体と連携することで、コミュニティ活性化につながるような利活用を検討する必要がある。									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額		
	財源内訳	事業費		996		0					
		国庫支出金	市債	その他特財	一般財源						
		996		0							

計画 (Plan)	
事業の目的	市が「かすみ堤」を国から河川占用した上で地域住民と協働して保全・活用することにより、地域コミュニティの活性化を図る。
今年度の事業の取組内容	庁内関係部局と連携しながら、かすみ堤の保全・活用に向けて国土交通省京浜河川事務所や地元町内会・保存会との調整や検討を行う。

実施結果 (Do)							
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	河川区域に再編入されたかすみ堤について、河川占用をするための国との協議を進め、今年度占用許可申請書を提出・受理された。また、地元町内会・保存会には、適宜情報提供し、占用後の維持管理及び活用について、協働して進めていくことで理解が得られている。						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1		目標				
			実績				
	2		目標				
			実績				
3		目標					
		実績					
4		目標					
		実績					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	国がかすみ堤を河川区域に再編入した理由は、気象変動による豪雨等水害の頻発や激甚化が想定されることから、河川堤防として地域の防災、減災に資するためである。さらに、高津区市議会議員懇談会からは保全を受け、利活用に向けた検討が要望されている。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	河川堤防として保全されたことを受け、事業名称を「水と緑のネットワークづくり推進事業」から「かすみ堤保全活用事業」に変更し、保全されたかすみ堤を市が河川占用した上で、地元保存会等との協働により維持管理及び活用を行うことで、地域コミュニティの活性化を図ることを目指すこととしている。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	水害等への備えとなる避難場所、さらには地域の憩いの場としての利活用を求める声はむしろ高まっている。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	国との協議を進め、河川の占用許可申請を提出・受理されている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	国や地元保存会等、庁内関係部局と協議を行いながら、効率的な事業推進手法を検討していく。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 国や地元保存会等、庁内関係部局とも協議を行いながら、効率的な事業推進手法を検討しつつ、継続することが適切であると考えられる。